



高松市体育指導委員制度発足
50周年記念式典

平成23年11月27日(日)

*the 50th
Anniversary*

高松市民スポーツ憲章

Takamatsu City Charter For Citizens' Sports

「健康なからだと心にうるおいのあるまちづくり」をめざすわたくしたちは
だれでも いつでも どこでもできるスポーツ活動をとoshi活力ある都市を
築くためここに高松市民スポーツ憲章を制定する

- 1 スポーツに親しみ たくましいからだと心を育てよう
- 1 スポーツに楽しみ 世代を越えて友情の輪を広げよう
- 1 スポーツを愛し 正しいマナーと思いやりの気持ちを養おう
- 1 スポーツで競い きびしさを学び 明日の世界にはだたこう

〔1987. 3. 31 高松市制定〕

制定のあらまし

高松市民スポーツ憲章は、市民のスポーツ振興を推進するための指針として、昭和62年3月31日に高松市が制定したもので、スポーツ振興法と「高松市民のねがい」(昭和55年9月25日高松市制定)の精神を継承し、近代スポーツの5つの柱、(1)市民皆体育運動の推進、(2)地域連帯感の強化、(3)スポーツマンシップの高揚、(4)国際交流の推進、(5)競技力の向上をその基本理念とします。

この憲章作成にあたっては、高松市体育指導委員連絡協議会をはじめとする関係機関・団体が参画しており、高松市スポーツ界各層の意見が集約されたこの4項目からなる、本文をスポーツに取り組む努力目標として市民が理解し実践することにより、「健康なからだとうるおいあるまちづくり」を目指しているのです。

50th Anniversary

目次

ご挨拶	高松市スポーツ推進委員連絡協議会 会長 城門 政文	1
祝 辞	高松市長 大西 秀人	2
祝 辞	高松市議会議長 妻鹿 常男	3
祝 辞	高松市地区体育協会連絡協議会 会長 鎌田 基志	4
高松市体育指導委員連絡協議会 歴代会長		5
高松市体育指導委員連絡協議会50年のあゆみ		6
記念講演		15
協賛広告		16

ご挨拶

高松市スポーツ推進委員連絡協議会
会長 城門 政文



平成23年11月吉日、高松市体育指導委員制度発足50周年を関係各位と迎えることを大変嬉しく思います。

昭和32年に体育指導委員制度が生まれ、昭和36年に制定された「スポーツ振興法」によって法的に位置づけられた体育指導委員が全国に誕生しました。当時、委員には学校教職員等の委嘱が多く見られた。その背景には、昭和21年体育指導者として市町村や職域ごとに、特に学校教職員が学校体育の指導とともに社会体育指導者として積極的に関与し得るよう「体育指導員」が選出され委嘱されていた。

昭和37年高松市においても、「高松市体育指導委員規則」に基づき体育指導委員が任命されました。地域スポーツ振興の推進役であり、地域スポーツの発展、活性化にむけたコーディネーターとしての役割が期待され市内各小学校区にて活動している地区体育協会との連携により、スポーツに親しむ住民を主役してスポーツに係る多様な取り組みを推進して参りました。今日まで先人達に多くを学び今日の礎を築く歴史を残して戴きました。

高松市は全国に先駆け昭和57年に各小学校区男女1名ずつを登用し、女性委員も誕生30年を迎えました。平成の大合併により高松市も近隣の6町と合併をして市内54小学校区選出の体育指導委員108名で活動しています。

「スポーツ振興法」も50年の時を経て全面改正され平成23年8月24日に「スポーツ基本法」が施行されました。体育指導委員より“スポーツ推進委員”と名称が変わりました。スポーツ基本法に「スポーツに関する基本理念」の一つに「地域における身近なスポーツの推進、スポーツを通じた人々の交流の促進、地域間の交流基盤の形成とあります」、これまでの職務に加えて「当該市町村におけるスポーツの推進に係る体制の整備を図るため」の文言や「スポーツの推進のための事業の実施に係る連絡調整」が規定されこうした職務内容にふさわしい名称としてスポーツ推進委員が採用されました。今後は基本法の基本理念に基づき市民のスポーツ振興上、多様化するニーズに適切に取り組み「スポーツ推進委員」がその中心となる重要な役割を担っている。高松市スポーツ推進委員連絡協議会は市民に親しまれ、市民とともに「オンリーワン」を目指して、今日次なるステージへ新たな一歩を。

祝 辞

高松市長 大西 秀人



高松市体育指導委員制度発足50周年記念式典が盛大に開催されますこと、心からお慶び申し上げます。

また、体育指導委員の皆様におかれましては、体育指導委員制度が昭和36年に発足して以来、50年もの長きにわたり、各地域におけるスポーツ振興の担い手として、スポーツやレクリエーションを通じ、住民の健康増進に多大な御尽力をいただいておりますこと、深く敬意と感謝の意を表します。

さて、御承知のとおり、近年、社会環境が大きく変化する中、地域住民が、生涯にわたり健康で明るく暮らすため、また、活力ある地域社会の再生や、地域の連帯感の醸成などを図るため、スポーツの果たす役割は、ますます重要になっております。

国においては、本年6月、これまでの「スポーツ振興法」を改正し、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことが人々の権利であるとの考えに立った新しい時代におけるスポーツの基本理念の実現を図ることを目的に「スポーツ基本法」を制定しました。

体育指導委員の役割は、近年、スポーツの実技の指導その他スポーツに関する指導や助言のみならず、スポーツの推進のための事業の実施に係る連絡調整の役割の重要性が増していることから、「スポーツ基本法」では、こうした職務が規定上追加されるとともに、当該職務をより適切に表す観点から、体育指導委員の名称が「スポーツ推進委員」に変更されたものです。

委員皆様におかれましては、この度の50周年を契機に、地域住民の健康づくりと体力づくりはもとより、スポーツを通してのコミュニケーションづくりや活力ある地域社会づくりのため、更なるお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、高松市体育指導委員皆様の、ますますの御健勝と御活躍を心から祈念申しあげ、お祝いの御挨拶といたします。

祝 辞

高松市議会議長 妻鹿 常男



高松市体育指導委員制度発足50周年という節目を迎えられ、城門会長様を始め、高松市体育指導委員の皆様方におかれましては、日ごろから、地域に根ざしたスポーツの実技指導やスポーツ活動のリーダーとして、献身的な御尽力を賜り、本市のスポーツ振興に、大いに貢献いただいておりますことに対しまして、心から敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

スポーツの振興は、市民の健康の維持増進に欠くことのできないものであり、長期的な展望に立った地道な活動が必要であることは言うまでもないことでありまして、このような意味からも、体育指導委員連絡協議会が果たしてこられた役割は、誠に大きく、意義深いものと存じます。

近年、我が国は、少子高齢化や価値観の多様化に加え、豊かで便利な世の中になるに伴い、日常生活の中で体を動かすことが少なくなり、青少年の健全な育成や、成人のストレス解消、生活習慣病の予防など、心身両面にわたる健康の保持増進が大きな課題になっております。

このような中、生涯にわたって、様々な目的や方法でスポーツに参加し、自分らしいスポーツライフを実現していくことは、私たちが、心豊かで、健康な生活をおくるために、大きな意味があると考えます。

体育指導委員の皆様方におかれましては、今後とも、市民のためのスポーツの振興や健康づくりの普及促進に、一層の御尽力を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

祝 辞

高松市地区体育協会連絡協議会
会 長 鎌田 基志



体育指導委員の皆様、制度発足50周年おめでとうございます。

また、体育指導委員の皆様方には、地区におけるスポーツ・レクリエーション活動の推進に鋭意取り組んでおられますことに、心よりお礼申しあげます。

高松市の地域スポーツの発展の中心には常に体育指導委員の皆様がおられました。この50年間を振り返れば、いかに様々なスポーツが日常生活に定着し、多くのスポーツ大会・イベントが開催される運びとなったかが分かります。そして、それらのスポーツ大会等が高松市の健全で活気に満ちた社会の形成に寄与してきたことから、体育指導委員の皆様の功績は真に大きかったものと伺い知ることができます。

一方で、近年、社会環境の変化に伴い、地域に根ざしたスポーツが果たす役割は今まで以上に重要と認識されております。地区体育協会連絡協議会といたしましても、体育指導委員との連携を深め、さらなるスポーツ活動の普及を通じて市民の体力づくりや地域コミュニティの活性化に努めてまいりますので、今後とも御支援・御協力をお願いいたします。

また、本年度、スポーツ基本法が制定されたことにより、名称がスポーツ推進委員に変更されましたが、これからも50年の歴史を礎に、より優れた地域スポーツ推進の旗手として御活躍されますよう期待いたしております。

高松市体育指導委員連絡協議会 歴代会長



昭和49年～昭和56年

初代会長 真部 歳一



昭和57年～昭和60年

2代目会長 小西 昌博



昭和61年～平成元年

3代目会長 井本 勝昌



平成2年～平成15年

4代目会長 熊野 勝敏



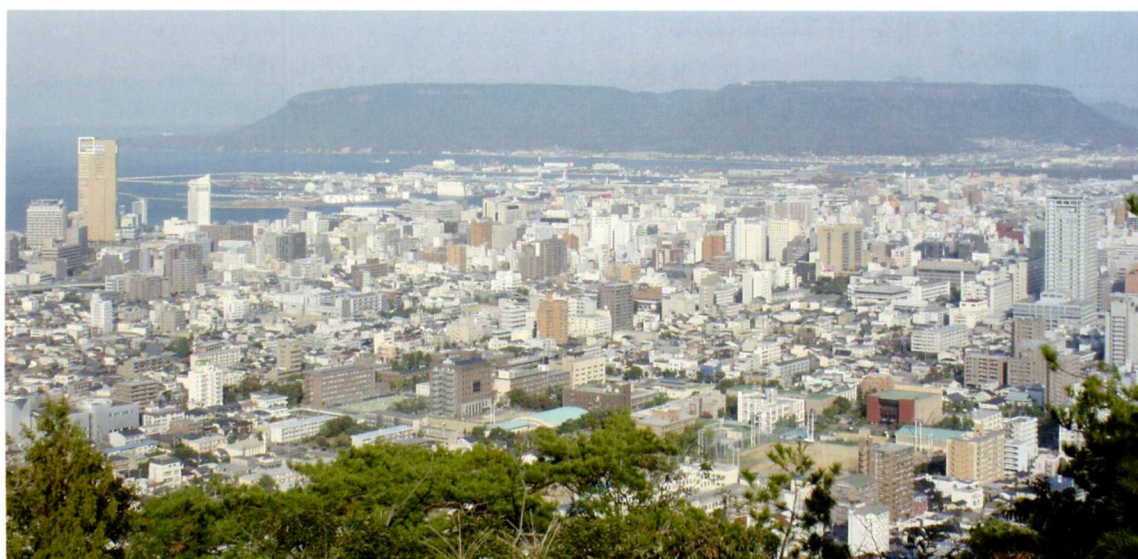
平成16年～現在

5代目会長 城門 政文

高松市体育指導委員連絡協議会

50年のあゆみ

50th Anniversary



(平成23年撮影)

(昭和56年撮影)



協議会のあゆみ

年度	あゆみ	備考
昭和33年度	体育指導委員設置準備会設立	
36年度	体育指導委員の法制度化	スポーツ振興法(第19条)
	高松市体育指導委員規則制定(3月26日)	
37年度	高松市体育指導委員の任命	
	高松市体育指導委員塩江研修会	
38年度	市民体育大会	協力
40年度	学校体育施設開放はじまる 香川県体育指導委員連絡協議会発足(県体指連)	
45年度	高松市体育指導委員が香川県体育指導委員連絡協議会に参加	
49年度	高松市体育指導委員連絡協議会設立 健脚大会	協力
50年度	学校開放自主管理運営方式採用	
51年度	校区対抗壮年男子年齢別ソフトボール大会	主管
	高松市体育指導委員連絡協議会規約制定	
	市民スポーツ課新設	
52年度	高松市地区体育協会連絡協議会設立	主管
	高齢者クロッケー大会	
53年度	校区対抗さわやかママさんバレーボール大会 (家庭婦人バレーボール大会より改称)	主管
	四国体指研究協議会高松市で開催	
54年度	トリムの祭典始まる(仏生山公園)	主管協力
55年度	校区対抗さわやかママさんソフトボール大会始まる	主管
	校区対抗インディアカ大会始まる	主管
	機関紙「体指連報」発刊	
	県民皆体育事業協力	
57年度	女性体育指導員の登用	
59年度	トリムの祭典の会場が仏生山公園から峰山公園へ移る	
61年度	高松市総合体育館落成	
	高松市民スポーツ憲章制定	
63年度	高松市校區別混成ソフトボール大会始まる	
	県民スポーツカーニバル協力	
平成元年度	市民健康まつり体力測定	協力
2年度	市制施工100周年記念市民スポーツフェスティバル	主管協力
	校区対抗インディアカ大会協会移管	高松市インディアカ協会へ
	校区対抗混成ソフトバレーボール大会始まる	主管
3年度	第32回全国体育指導委員研究協議会高松市で開催 研修旅行(湯郷)	同協議会第1分科会で研究発表
4年度	校区対抗綱引き大会始まる	主管
	体育指導委員任命30年及び女性体育指導委員誕生10周年記念式典挙行	記念式典、記念講演、シンポジウム、懇親会
5年度	第48回国民体育大会東四国大会開催 研修旅行(甲賀)、甲賀町体指交流	運営協力

6年度	第7回全国健康福祉祭「ねんりんピック'94香川」開催 トリムの祭典の会場が峰山公園から中央公園へ移る	運営協力
7年度	第1回高松市民スポーツフェスティバル開催 (社)全国体指連合から優良団体表彰受賞 研修旅行(皆生)	主管
8年度	高松市スポーツリーダーバンク設立される 市民スポーツカレッジ発足	
9年度	香川県体育指導委員研究協議会(観音寺) 研修旅行(南紀白浜)	同協議会第1分科会で研究発表
10年度	校区対抗元気ハツラツドッジボール大会始まる	主管
11年度	校区対抗50歳以上男子ファーストピッチソフトボール大会始まる 校区対抗60歳以上男子スローピッチソフトボール大会始まる 研修旅行(伊勢、鳥羽)	主管 主管
12年度	全国体育指導委員研究協議会(高知)	同協議会第1分科会で研究発表
13年度	体育指導委員任命40年及び女性体育指導委員誕生20周年記念式典挙行 研修旅行(湯布院・筋湯温泉)	記念式典、記念講演、シンポジウム、懇親会
14年度	四国地区体育指導委員研修会(高松)	
15年度	第16回スポーツ・レクリエーション祭(スポレク香川2003) 研修旅行(長門湯本温泉)	運営協力
16年度	県体指設立40周年記念式典&県体指研修会 高松市体育指導委員連絡協議会ホームページ開設	
17年度	研修旅行(北陸・山代温泉) 塩江町合併(9月26日付) 牟礼・庵治・香川・香南・国分寺町合併(1月10日付)	
18年度	1市6町の合併により体育指導委員108名体制となる トリムの祭典の会場がサンポート高松に変更される	
19年度	校区対抗クイーンズカップドッジボール大会始まる 校区対抗混成ソフトバレーボール大会第20回にて終了 研修旅行(宮崎・高千穂峡)	主管 市民スポーツフェスティバルに移行
20年度	体指委嘱者が教育長から高松市長に代わる 機構変更により市民政策部国際文化・スポーツ局スポーツ振興課となる 校区対抗ダイヤゾンボール大会始まる 体指任命50年及び女性体指30周年記念式典準備委員会発足	主管
21年度	(社)全国体指連合から優良団体表彰受賞 研修旅行(和歌山熊野古道・那智大社)	
22年度	体指任命50周年記念式典実行委員会発足 四国地区体育指導委員研修会(高松市サンポートホール)	
23年度	8月24日スポーツ基本法が施行される。このことにより「体育指導委員」 から「スポーツ推進委員」に名称が変更された。 高松市スポーツ推進委員連絡協議会となる。 体指任命50周年記念式典及び祝賀会挙行(全日空ホテルクレメント高松) 研修旅行(未定)	記念式典、記念講演、祝賀会

協議会のあゆみ



昭和55・56年体指



昭和57・58年女性体指



昭和57・58年男性体指



昭和61・62年女性体指



昭和61・62年男性体指



第1回高松市民スポーツフェスティバル

～1991



東四国国体



平成3年 全国体指香川大会



協議会のあゆみ



平成4年体指30周年



平成7年全国体指優良団体受賞祝賀会



平成10年四国体指



平成11年市研修会

～2004



平成11年市研修会



第41回全国体指



高知全国体指



平成15年度県体指



平成16年県体指40周年

協議会のあゆみ

～2007



平成16年 市民スポーツフェスティバル



平成17年 こんぴら健脚市民スポーツ課



平成18年度全国体指



平成19年度県体指

～ 2010



第1回高松ファミリー&クォーターマラソン in Aji



平成22年度四国体指香川大会



平成22年こんぴら健脚スポーツ振興課



第1回ダイヤゾン・ボール大会

記念講演



テーマ

スポーツ立国戦略にみえる スポーツ推進委員の役割

株式会社スポーツコミュニケーションズ代表取締役 東北楽天ゴールデンイーグルス経営評議委員
日本サッカーミュージアムアドバイザーボード委員 スポーツジャーナリスト

二宮 清純 氏

スポーツジャーナリストとして、世界各国でオリンピック、サッカーW杯、メジャーリーグ、ボクシング世界戦など、数多くを取材する。

その中で、日本においてスポーツが文化として根付いていないことを痛感。

人間が生み出したかけがえのない文化であるスポーツを多くの人が楽しめることを願い、1999年にインターネットマガジン「Sports Communications」を開始する。

経歴

1960年、愛媛県生まれ。

スポーツ紙や流通紙の記者を経て、フリーのスポーツジャーナリストとして独立。

1999年6月より、インターネット・マガジン「Sports Communications」を設立。

2000年より株式会社スポーツコミュニケーションズ 代表取締役。

2006年4月には、携帯サイト「二宮清純.com」を開設。

主な講演テーマ

「勝者の思考法」

「スポーツが文化たりえるために～地域にスポーツを取り戻そう」等々

